

福知山市

2040

くらしの

ビジョン

福知山市2040年市民会議からの
100の提言書

2026（令和8）年3月

——いま、福知山の未来を私たちの手で

福知山に暮らすすべての人へ。このまちを想うすべての人へ。

いま、このまちは岐路に立っている。

2040年——あと14年。福知山の人口は約1万人減り、67,000人になると推計されている。高齢化率は35%に達し、認知症有病者は4,900人を超える。水道管の経年管率は66%に跳ね上がり、公共施設の7割超が築40年を超える。施設更新に必要な1,110億円に対し、投資可能額はわずか335億円。農家数は4割以上減り、荒れた農地は水害リスクを高め、路線バスは減便し、空き家は朽ちていく。これらは「予測」ではない。すでに始まっている現実である。

しかし、私たちはただ衰退を見つめていたわけではない。

2025（令和7）年6月、無作為抽出（くじ引き）で選ばれた100名の市民が福知山公立大学に集った。そこから始まった「福知山市2040年市民会議」は、全5回の対面・オンラインでの議論、オンラインプラットフォーム「2040くらしのスケッチ」への200件を超える投稿、そして活発なグループ討議を経て、この街が抱える課題と、この街が望む未来の姿を、市民自身の言葉で描き出した。

「まちの将来像が見えない中での活動は虚しい。ゴールを示して」

——ある参加者はそう訴えた。

「車がなければ暮らせないまちでは高齢者は住み続けられない」

——切実な声があった。

「農業は儲からない。放棄すると災害リスクが上がる。誰が守るのか」

——問いは突きつけられた。

「本気で良くしたいから来ている」

——その言葉が、すべてを物語っている。

この提言書は、行政への「お願い」ではない。

私たち市民が、自らの暮らしと地域の未来に対して、当事者として発する意志の表明である。

会議の中で、私たちは多くの他の地域での新しい息吹や、守るための営みを学んだ。他の地域にできて、福知山にできないはずがない。

いや、福知山には福知山にしかない力がある。和紙、漆、藍染、スイーツ、福知山踊り、地酒。由良川の流れと、城下町の佇まい。そして何より、この市民会議に集い、声を上げ、議論し続けた市民の熱がある。

私たちが求める未来は、決して夢物語ではない。

こどもの声が聞こえる街。雨の日にもこどもが思いきり遊べる街。若者が「この街で働きたい」と思える街。高齢者が車なしでも自由に移動できる街。農地が守られ、空き家が活かされ、商店街に賑わいが戻る街。デジタルの恩恵が全世代に届く街。障害のある人も、外国から来た人も、誰もが地域の一員として暮らせる街。「〇〇がないから惜しい」ではなく、「**〇〇はないけど素晴らしい**」と誇れるまち。それが、私たちが描く2040年の福知山である。

"Nothing about us, without us."

——**私たち抜きに、私たちのことを決めるな。**

とある講演者が語った言葉を、私たちは胸に刻む。今、問われているのは、何を守り、何を变えるかという私たち自身の選択である。

その時に、必ずしも、全員が同じ方向を向く必要はない。多様な小さなコミュニティが、それぞれの持ち場で火を灯す。その火が連なるとき、まちは変わる。

この提言書は、終わりではなく始まりである。

ここに記された言葉の一つひとつは、市民会議の場で、オンラインプラットフォームの画面の向こうで、この街の未来を真剣に考えた人々の声そのものである。この声を、政策に。政策を、暮らしに。暮らしを、次の世代に。

ある講演者は語った、関係人口の本質は「**地域の空気を温めること**」だと。

ならば、私たちはいま、この街の空気を温め始めた最初の人々である。

福知山の未来は、ここから始まる。私たちの手で、対話の場を開き続けていこう。

2026（令和8）年3月

福知山市2040年市民会議 参加者一同

目次

提言書	
■ ——いま、福知山の未来を私たちの手で（前文）	…… 2
■ 福知山市2040 暮らしのビジョン（ビジョンマップ）	…… 4
■ 提言テーマ1：文化 福知山の記憶と個性を未来へつなぐ	…… 5
1-1 継承 受け継ぎ、伝え、残す	
1-2 歴史 まちのものがたりを歴き直す	
1-3 誇り 「ここが好き」と言えるまちへ	
■ 提言テーマ2：共生 誰もがこのまちの一員として	…… 6
2-1 つながり 世代・地域・国籍を超えて出会う	
2-2 ささえあい 支える人も支えられる社会	
■ 提言テーマ3：学び 自ら考え、自ら動くまちへ	…… 7
3-1 自立 市民が主役のまちづくり	
3-2 教育のまち こどもも大人も学び続ける	
■ 提言テーマ4：仕事 暮らしを支え、まちを回す力	…… 8
4-1 経済 賑わいと活力を取り戻す	
4-2 雇用 「ここで働きたい」を叶える	
4-3 循環 土地・資源・お金を地域で回す	
■ 提言テーマ5：交通・インフラ どこへでも・誰もがつかえる	…… 9
5-1 移動/公共交通 安全で快適な移動	
5-2 公共/民間の施設 必要な機能がある	
5-3 広域連携 北近畿の中核都市として	
■ 提言テーマ6：安全 いのちと暮らしがまもられるまち	…… 10
6-1 福祉 すべての世代に届く安心	
6-2 医療 住み続けられる医療をまもる	
6-3 防災 備え、逃げられ、立ち直れるまち	
参考資料	
■ 福知山市2040年市民会議・オンラインプラットフォーム「暮らしのスケッチ」の全体像	…… 12
■ 第1回市民会議（2025年6月22日） 議論サマリー	…… 13
■ 第2回市民会議（2025年8月30日） 講演まとめ／議論サマリー	…… 14-15
■ 第3回市民会議（2025年10月25日）講演まとめ／議論サマリー	…… 16-17
■ 第4回市民会議（2025年12月21日）講演まとめ／議論サマリー	…… 18-19
■ 第5回市民会議（2026年2月28日） 議論サマリー	…… 20
■ オンラインプラットフォーム「暮らしのスケッチ」 意見募集①「ここが惜しい」と感じるもの・こと	…… 21
■ オンラインプラットフォーム「暮らしのスケッチ」 意見募集②③「理想の福知山像・2040年の暮らし」	…… 22

安全

福祉・医療・防災

移動

移動/公共交通・
公共/民間の施設・
広域連携



福知山市2040
くらしのビジョン

自分で、みんな で福知山をつくる



仕事

経済・雇用・循環



共生

つながり・支え合い

文化

継承・歴史・誇り

学び

自立・教育のまち



提言テーマ1：文化 福知山の記憶と個性を未来へつなぐ

1-1 継承 受け継ぎ、伝え、残す

- 1-1-1) 祭り・神社の維持が人口減少で困難になりつつある現状を踏まえ、伝統行事の担い手育成プログラムと持続可能な財源確保の仕組み（クラウドファンディング、関係人口による支援等）を構築する。
- 1-1-2) 和紙、漆、藍染、スイーツ、福知山踊り、地酒など福知山固有の伝統的技術や食文化を「プロセスの共有」（物語性）とともに発信し、次世代への継承と関係人口の創出を同時に図る。単なる展示ではなく体験型の継承を重視する。
- 1-1-3) 小中学生の郷土教育を抜本的に見直し、郷土資料館の再開、歴史資料の利用・公開体制の整備、専門職員の雇用を行い、こどもの地元愛を育む基盤を整備する。光秀偏重のPRから脱却し、多角的な歴史・文化資源の教育を推進する。
- 1-1-4) 「農林だけでなく水産もある福知山」を再認識し、サケの孵化事業など全国でも希少な取り組みを文化的資源として位置づけ、継承・発信する。由良川の恵みを福知山のアイデンティティとして次世代に伝える。
- 1-1-5) 使える文化施設がないという声に応え、老朽化した文化施設（厚生会館・市民会館等）のリニューアルや多機能化を進め、コンサート・演劇・展示など多様な文化活動を支える拠点を整備する。
- 1-1-6) 退職世代が長年培った知識・技術・経験を地域文化として継承するため、技能・知恵の「語り部」登録制度や市民講師バンクを創設し、世代間の文化伝承を活性化する。

1-2 歴史 まちのものがたりを磨き直す

- 1-2-1) 福知山城を核とした歴史的街並みのブランディングを強化する。岡山県倉敷市の美観地区のような成功事例を参考に、「鬼と光秀」一辺倒から脱却した多角的な歴史資源の活用・発信を図る。
- 1-2-2) 空き家のうち歴史的建造物については外観保存と内装モダン改修を組み合わせ、観光資源として再生する。広小路商店街など既存の歴史的街並みと新しいアート・デザインの融合も検討する。
- 1-2-3) 旧3町（三和町・夜久野町・大江町）を含む市内各地域の歴史的・文化的資源を若い世代にも伝わるよう、SNSやデジタルツールを活用した発信体制を構築する。地域ごとのイベント開催や学校での配布も組み合わせる。
- 1-2-4) 由良川をはじめとする自然資源を歴史・文化と結びつけた散策ルートや親水空間を整備する。京都の鴨川デルタや兵庫の夙川のように、市民と来訪者が四季を感じながら憩える場をつくる。
- 1-2-5) 福知山城周辺の駐車場拡大や回遊性向上のための歩行者動線整備を行い、お城を起点とした観光ルート（広小路～御霊公園）を魅力的な体験コースとして再構築する。
- 1-2-6) 福知山駅周辺や市街地にアートの要素を取り入れ、美術家・デザイナーの作品展示やパブリックアートの設置など、殺風景な都市空間に文化的な彩りを加える。

1-3 誇り「ここが好き」と言えるまちへ

- 1-3-1) 「○○がないから惜しい」ではなく「○○はないけど素晴らしい」と誇れるまちへの意識転換を促す。福知山の強み（食・自然・交通の拠点性・出生率の高さ等）を市民が再認識できるシビックプライド醸成の取り組みを推進する。
- 1-3-2) 「いがいと福知山」に替わる、市民が胸を張れるキャッチコピーやブランドメッセージを市民参加で策定する。「やるやん福知山」のように前向きで、世代を問わず共感できるものを目指す。
- 1-3-3) 福知山マラソンを都市部の大会と差別化し、大江山連峰を駆け抜けるトレッキングレースや深夜マラソンなど、福知山の地形・自然を活かした独自性のある大会へリニューアルする。ランナーの声を直接聞く仕組みを設ける。
- 1-3-4) 障害がある人となない人がコラボした芸術祭の開催や、「福知山の変」のような市民発の挑戦的プロジェクトを復活・拡大させ、全国に先駆けた取り組みを福知山の新たな誇りとして打ち出す。
- 1-3-5) 三段池公園・科学館など既存の魅力ある施設を大切にしつつ、スポーツの街・アートの街など新たなテーマでの都市ブランディングを検討する。「一つに決めて突き抜ける」ことでパラダイムシフトを起こす。
- 1-3-6) 「海・山・お茶の京都」のブランディングの中での福知山の独自ポジションを明確化し、他の京都府北部自治体との差別化を図る。誰にとっても開かれた入り口となるテーマ設定を行う。
- 1-3-7) お土産品の多様化やスイーツのまちとしてのブランド定着など、来訪者や帰省者が「福知山らしさ」を持ち帰れる具体的な商品・体験開発を推進する。踊せんべい以外の選択肢を増やす。

提言テーマ2：共生 誰もがこのまちの一員として

2-1 つながり 世代・地域・国籍を超えて出会う

- 2-1-1) 自治会加入率の低下や担い手不足に対応するため、参加方法を多様化する。「読む」「寄付」「単発参加」等、関わり方に「階段」（ハードルの異なる間口）を設け、特に若い世代や転入者が気軽に参加できる仕組みをつくる。
- 2-1-2) 新旧住民の交流を促進するため、転入者への地域活動情報の提供体制を構築する。自治会の価値を災害時の避難所情報提供など具体的な場面で認識してもらい、有事の際に関係性が活きる基盤をつくる。
- 2-1-3) 世代間交流の「場」として、温泉・学校・カフェなど肩書きの影響が小さい場所でフラットな関係性を生み出す取り組みを推進する。退職前（40～50代）からのつながりづくりも重要である。
- 2-1-4) 外国人技能実習生や留学生との共生に向け、言語の壁・教育支援の不足に対応する。受け入れ企業を含めた地域全体での共生体制を構築し、外国人住民が「地域の一員として暮らせる」環境を整備する。
- 2-1-5) 関係人口の創出を中長期的視点で取り組む。五城目町の「村民制度」や双葉町のアーティスト・イン・レジデンスの事例を参考に、「3回来させれば暮らしていると錯覚する」ような緩やかな参画の余白をつくる。
- 2-1-6) 公立大学の学生（多くが住民票を市外に置いている）を市民参加の対象に含め、学生と地域をつなぐ仕組みを構築する。学生の視点と行動力を地域活性化に活かす。
- 2-1-7) 「全員が同じ方向を向く必要はない」という認識のもと、多様な小さなコミュニティが共存・連携する重層的な地域社会を目指す。趣味・スポーツ・文化など多彩なコミュニティの情報を可視化し、参加を促進する。

2-2 ささえあい 支える人も支えられる社会

- 2-2-1) 「支える人を支える」仕組みを構築する。区長・消防団員・自治会長・民生委員など複数役職を1人が兼務する現状を改善し、役割分担の見直しと担い手の負担軽減を図る。「役割の押し付け合い」文化からの脱却を目指す。
- 2-2-2) 独居高齢者の見守り体制を強化する。デジタルツールを活用した安否確認システムと、近隣住民による声かけの両輪で、「近くに住んでいても心配」という状況を解消する。
- 2-2-3) ボランティア活動やサークル活動の情報を一元化し、市民が「何があるか分からない」状況を解消する。広報ふくちやま・SNS・回覧板など複数チャネルで情報を届け、特に高齢者の社会参加機会を拡大する。
- 2-2-4) 65歳以上の退職世代が社会参加・就労できる仕組みを整備する。各分野で活躍された方の知識・経験を地域で活かせる場を創出し、所得・税収・認知症予防・フレイル予防につながる好循環を生み出す。
- 2-2-5) 校区にこだわらず、誰でも参加できる子育てサロン・イベント・公民館活動を拡充する。校区外の住民が参加できないという壁を取り除き、子育て支援情報の発信を市が一元的に行う体制を構築する。
- 2-2-6) 使われていない集会所・公民館を多世代交流の拠点として再活用する。こども食堂・学習支援・高齢者サロン・外国人交流など複数機能を持たせ、地域の「居場所」として再生する。
- 2-2-7) 三段池動物園の飼育環境改善など、動物愛護の視点を含めた公共施設の運営見直しを行い、命の大切さを伝える教育機会として再生する。こどもも大人も「生き物と共に暮らす」意識を育む。

提言テーマ3：学び 自ら考え、自ら動くまちへ

3-1 自立 市民が主役のまちづくり

- 3-1-1) 住民主体のまちづくりを推進するため、「行政任せ」から脱却し、住民自身ができることを力を合わせて行う文化を醸成する。「Nothing about us, without us（私たち抜きで決めるな）」の精神を市民全体に浸透させる。
- 3-1-2) 若者にイベントの予算と裁量を委譲し、主体的な参加を促進する。高齢者世代は「遠慮せず具体的に声をかける」ことで若者の参画を促し、世代間の対等な関係を築く。
- 3-1-3) まちづくりを学び・話し合う「参加・対話の場」を日常的に設ける。市民会議のような場を一過性に終わらせず、まちづくり協議会の定期開催や「くらしのスケッチ」の継続運用など、常設の対話の仕組みを制度化する。
- 3-1-4) 部分改良ではなく「次世代型システム」の構築が必要との認識のもと、散在する課題（防災・空き家・外国人共生・デジタル等）を統一的な視点で再構築する横断的アプローチを採用する。縦割り行政の壁を越えた「チーム福知山」の連携を推進する。
- 3-1-5) 「住民の減少で手が回らなくなったことを全て市がやるべき」という風潮に対し、住民と行政の役割分担を明確にした上で、住民同士が助け合う「小さな共助」の文化を再構築する。補助金に依存しない自立的なコミュニティモデルを目指す。
- 3-1-6) 市の未来予測データ（人口・財政・インフラ等）をホームページ・SNS等で広く市民に共有し、「何を守り何を变えるか」について市民全体で考える土壌をつくる。情報公開と対話を市政運営の基本姿勢とする。

3-2 教育のまち こどもも大人も学び続ける

- 3-2-1) 全天候型のこどもの遊び場（室内遊戯施設）を早急に整備する。近隣市（舞鶴あそびあむ・綾部あやテラス・宮津にっこりあ・豊岡WACCU等）には既に整備されており、「子育てを全面に打ち出すなら土日どこに行こうか迷う市ではいけない」という市民の切実な声に応える。フードコートも併設し一日中過ごせる場とする。
- 3-2-2) 中高生の居場所・学習環境を充実させる。図書館の席数拡大、交流プラザの3階ギャラリーの無料開放や、その他空きスペースの有効活用など、勉強や交流に使える場の選択肢を増やす。充実した学生時代の経験が将来の定住意向につながる。
- 3-2-3) オンラインで都市部の学校と連携した授業共有や、学校間の合同授業を実施し、人口減少下でも教育の質を維持・向上させる。特別支援教育の充実、不登校児童への多様な学びの場の確保、複式学級化への対応も進める。
- 3-2-4) 福知山公立大学の学生が地域に根づく仕組みを強化する。大学生の創業支援（無利子融資等）や地域活動への参画を促し、「高校生が大学生になった時にここで4年間を過ごしたいと思える」施策を打つ。
- 3-2-5) 高齢者を対象としたスマホ教室・デジタル講座を戸別訪問も含めて拡充する。高齢者向けにスマホをはじめとしたデジタルデバイスを普及していく際には、YouTube学習・家族ビデオ通話・健康管理など具体的な活用法を伝え、全世代がデジタルの恩恵を受けられる環境を整備する。
- 3-2-6) 留学支援の奨学金制度を創設し、こどもたちが世界を見る機会を積極的に創出する。PTA活動の負担軽減や通学路の安全確保、学校施設の老朽化対策など、保護者・こどもの日常的な教育環境の改善にも取り組む。
- 3-2-7) 「面白い大人でいっぱい福知山！早く大人になりたい！」とこどもが思えるまちを目指し、地域の大人が学校や地域活動でこどもと関わる機会を増やす。AI時代に活躍できる人材の育成を見据えた教育ビジョンを策定する。
- 3-2-8) 安全な水遊び場の設置や公園遊具の充実・安全管理の徹底など、未就学児～小学生が天候を気にせず思いきり体を動かせる環境を市内各所に整備する。「親も少し罪悪感なく遊ばせてあげられる」場をつくる。

提言テーマ4：仕事 暮らしを支え、まちを回す力

4-1 経済 賑わいと活力を取り戻す

- 4-1-1) 大型商業施設の誘致を含む商業環境の抜本的改善を図る。イオンの専門店撤退が進み「ドラッグストアばかり」という現状に対し、北近畿の拠点都市にふさわしい買い物環境を整備する。無印良品酒田モデルのように市からの熱意ある直接交渉による企業誘致も検討する。
- 4-1-2) 中心商店街の再生に向け、空き店舗の活用やシャッターアートなど段階的な取り組みで賑わいを取り戻す。五城目町の「朝イチプラス」のように出店ハードルを下げた取り組みで若い世代の起業を後押しする。
- 4-1-3) 公共事業への新規参入を促進する。市の入札制度の透明性向上や、スタートアップへの優先発注枠の設定など、競争性と公正性のある経済環境を整備する。
- 4-1-4) 福知山の「食」の強みを活かした観光コンテンツを開発する。季節の農産物・川魚・地酒などを組み合わせたフードツーリズムや、農業体験と連動した滞在型観光を推進し、観光消費額の向上を図る。
- 4-1-5) 市民交流の拠点機能、コンサートや研修に使える文化ホール、格安宿泊施設を組み合わせた複合施設を整備し、市内外からの集客と地域活性化を図る。雨天時でも屋外イベントが可能な大屋根構造も検討する。

4-2 雇用 「ここで働きたい」を叶える

- 4-2-1) 若者の市外流出を食い止めるため、魅力ある雇用の創出に取り組む。スタートアップ支援・起業創業支援を充実させ、「残りたいが仕事がない」という声に応える。地元企業の閉鎖性や公共事業への新規参入困難を改善し、競争性のある経済環境を整える。
- 4-2-2) 女性・若者の意思決定の場への参画を促進する。育児中の柔軟な勤務体制（週数時間からの就労機会等）を整備し、「働きたい人は沢山いるのに働ける場所が少ない」状況を解消する。女性が市外に流出する構造的要因に対処する。
- 4-2-3) 長田野工業団地の拡大や半導体企業の誘致など、福知山ICの立地を活かした高付加価値産業の集積を図る。農業分野でも福知山ICを活かした流通拠点化を検討する。
- 4-2-4) 高校生・大学生が福知山に残りたいと思えるインセンティブを導入する。USJ直行バスの割引、大学生向けカーシェア補助、丹鉄1日乗車券の配布など、若者の生活を豊かにする具体策を実施する。
- 4-2-5) テレワーク・リモートワークの拠点整備を進め、都市部の企業に勤めながら福知山に住むライフスタイルを可能にする。廃校や空き店舗をコワーキングスペースに転用し、二拠点居住者や移住検討者の受け皿をつくる。

4-3 循環 土地・資源・お金を地域で回す

- 4-3-1) 農業従事者の高齢化と耕作放棄地の増加に対し、「農地バンク」を創設する。空き家バンクと同様に農地を仲介し、貸したい人と借りたい人をつなぐ窓口を一本化する。行政による農地リース・サブリースの仲介モデルを構築し、新規就農・後継者確保を図る。
- 4-3-2) 農産物のブランド化を推進する。食料自給率100%に持っていけるポテンシャルを活かし、農業の市営化・収益化も検討する。「ど田舎を自覚し、都会の真似ではなく福知山だからできること」を全員参加で追求する。
- 4-3-3) 地域通貨・健康ポイントによる地域内経済循環の仕組みを導入する。他自治体におけるデジタル地域通貨の事例を参考に、地域店舗での利用促進と地域経済の活性化を図る。高齢者の健康ポイント獲得が経済循環と健康増進の両方に寄与する仕組みとする。
- 4-3-4) 空き家問題に対し、ABC評価で分類し「一時利用可」物件を低額の週末宿泊や「お試し住居」に活用する。行政（初期修繕）、民間（運営）、地域（支援）の三者連携モデルで空き家の流動化を促進する。空き家バンクのサイト改善と対応迅速化も急務である。
- 4-3-5) プラスチックごみの処理方針を見直し、環境負荷と市民負担のバランスを再検討する。綾部市の高温焼却方式など近隣自治体の事例も参考に、持続可能な廃棄物処理体制を構築する。
- 4-3-6) 使われていない耕運機・トラクターなどの農業機械を共有・レンタルする仕組みを構築し、新規就農者の初期投資を軽減する。全自動草刈り機の無償貸出やレンタル農園の設置など、農業参入のハードルを下げる。
- 4-3-7) 空き家に付帯する農地・山林が活用の障壁となっている問題（農業委員会の許可等）を解消するため、空き家と農地のセット流通を可能にする制度的枠組みを整備する。

提言テーマ5：交通・インフラ どこへでも・誰もがつかえる

5-1 移動/公共交通 安全で快適な移動

- 5-1-1) 公共交通の減便・廃線に歯止めをかけ、免許返納後の高齢者や車を持たない市民が安心して移動できる交通手段を確保する。バス経路の100～200メートル延伸、低速モビリティ（免許不要の電動車両）の導入、ライドシェアの解禁、副業としての高齢者輸送サービスなど多様な選択肢を整備する。
- 5-1-2) 丹鉄・JRとの連携を強化し、公立大学・福知山高校付近への新駅設置を社会実験から検討する。サイクルトレインの導入やスクールバスと公共交通の統合など、分野横断的な交通網の効率化を図る。
- 5-1-3) 京都・大阪へのアクセス改善を図る。特急の所要時間短縮（福知山～京都は姫路～大阪と同距離なのに時間がかかりすぎる）、京都縦貫道の整備促進、高速バスの増便など、通勤・通学圏としてのポテンシャルを引き出す。
- 5-1-4) 街灯の増設・道路の雑草管理・横断歩道や信号機の設置など、安全な移動環境を整備する。国道9号の歩道整備や街路樹の植栽、国道の急カーブ区間（三岳～上川口等）の改善も推進する。
- 5-1-5) 都市圏への通勤・通学者に対する交通費補助制度を検討し、福知山に住みながら京阪神で働く・学ぶライフスタイルを支援する。定住促進と交通機関の利用者増加の両立を図る。
- 5-1-6) 道路舗装のツギハギや凹凸の解消、音無瀬橋～土師橋～川北橋の川沿い周回路の整備など、歩行者・ランナー・サイクリストが安全に楽しめるインフラを整備する。福知山マラソンのコース改善にもつなげる。

5-2 公共/民間の施設 必要な機能がある

- 5-2-1) 公共施設・商業施設・医療施設の立地は、車前提ではなく公共交通の結節性を意識して設計する。無料駐車場の確保や屋根付き駐車場の整備も含め、子連れや高齢者が雨天時でも利用しやすい環境をつくる。
- 5-2-2) 公共施設マネジメントを「削減」ではなく「未来への投資」と位置づける。30年間で約1,110億円の施設更新費不足に対し、民間活力の導入（PFI・指定管理の高度化等）で持続可能な運営モデルを構築する。民間事業者の収益で施設維持費を賄い、税金を他の用途に振り向ける。
- 5-2-3) 廃校の民間活用をさらに推進する。旧天津小→サッカー場化、旧中六人部小→イチゴ農園などの成功事例を他の未利用施設にも展開し、雇用創出と関係人口の増加につなげる。
- 5-2-4) 駅前の市民交流プラザをはじめ、平日にガラガラの公共施設の有効活用策を検討する。入場料を取っても良いこどもの遊び場への転用や、市外からも電車で来やすい立地を活かした集客施設化など、柔軟な発想で再活用する。

5-3 広域連携 北近畿の中核都市として

- 5-3-1) 北近畿の中核都市として、府県境を越えた自治体間連携を推進する。図書館・プール・体育館・清掃工場・火葬場等の共同利用や、技術職員の人事交流など、施設と人材の広域的な共有を図る。
- 5-3-2) 公共施設に関する「広域連携」を導入し、共同利用・共同調達や技術職員の共同採用などにより、隣接自治体と機能を補完し合うことで住民サービスを維持しつつコスト削減を実現する。まず大規模施設（清掃工場・処理場等）から段階的に広域化を進める。
- 5-3-3) 二拠点生活モデルの推進や、他自治体の良い取り組みの積極的導入など、開かれた姿勢で地域間の学び合いを進める。「閉鎖的で外の世界を見ようとなし」という姿勢ではなく、外に開かれた都市文化を醸成する。
- 5-3-4) 水道管の経年管率が2020年の22%から2040年には66%に急増する見通しを踏まえ、水道・下水道インフラの広域的な持続可能な運営体制を検討する。流域単位での連携も視野に入れる。
- 5-3-5) トレイルランニング・サイクリング等のアウトドアアクティビティを丹鉄やJRと連携して広域的に誘致する。北近畿全体をフィールドとしたスポーツツーリズムを推進し、交通機関の利用促進にもつなげる。
- 5-3-6) 移住促進における広域連携を強化する。「福知山暮らし体験ツアー」「お試し住居」等の既存事業の地域間格差（移住者定着率等：三和町71%、大江町26%）を分析し、効果的な施策を全域に展開する。
- 5-3-7) 豊岡市の「但馬～伊丹の航空運賃補助」や「全但バスの充実」の事例を参考に、北近畿圏域全体の交通利便性向上を共同で推進する。福知山を起点とした広域観光ルートの開発や共通交通パスの導入も検討する。

鍵となる概念・用語：移動手段の多様化, 公共施設の持続可能な運営, 府県境を越えた広域連携

提言テーマ6：安全 いのちとくらしがまもられるまち

6-1 福祉 すべての世代に届く安心

- 6-1-1) 高齢者・障害がある人・子ども、誰もが壁なく安心して暮らせる共生型福祉を構築する。「子育て支援ばかりで高齢者には手厚くない」「障害がある人にも優しいまちに」という声を踏まえ、全世代が恩恵を受けられるバランスのとれた福祉を実現する。
- 6-1-2) 在宅介護者の負担軽減と介護人材の確保に取り組む。認知症有病者が約3,500人→約4,900人に増加する予測を踏まえ、介護予防（フレイル予防）の充実と退職世代の介護分野への参入促進を図る。
- 6-1-3) 認知症への対応を地域全体で支える体制を構築する。ACP（人生会議）が地域でできる仕組みを整え、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるまちをつくる。
- 6-1-4) 保育園の姉妹別園問題の解消、3人目無償化の要件緩和（同時利用条件の撤廃）、待機児童対策の推進など、子育て世代の具体的な困りごとに寄り添った制度改善を進める。
- 6-1-5) 身障者用駐車スペースの適正利用促進や、バリアフリー環境の整備、視覚・聴覚に障害がある人への情報伝達の充実など、障害のある人が日常生活で不便を感じない環境づくりを推進する。
- 6-1-6) 高齢者の免許返納後の買い物支援を強化する。移動販売の拡充、買い物代行サービス、中山間地域への定期的な商品配送など、「車がなければ暮らせない」状況の解消に取り組む。

6-2 医療 住み続けられる医療をまもる

- 6-2-1) 北近畿では医療が充実しているという現状を再認識した上で、今の医療体制への感謝をもとに維持策を講じる。急性期医療と地域医療の両輪を堅持し、今後の「集約化」においても福知山が拠点となるよう備える。
- 6-2-2) 耳鼻科・産婦人科（体外受精可能な不妊外来含む）・助産院など、不足している診療科の誘致・開設を支援する。市民病院の午前だけの診療体制も見直し、働く世代が受診しやすい環境を整備する。
- 6-2-3) 医療機関の情報発信（ホームページ整備、休診日の明確化等）を促進する。転入者が「やっているのかわからないのか分からない」と感じる不親切さを解消し、誰もが必要な医療情報にアクセスできる環境を整える。
- 6-2-4) 健康寿命延伸のリテラシーを中年期から高める仕組みを構築する。市民病院の混雑緩和、高齢者の医療費負担と現役世代の負担のバランス改善にも取り組む。
- 6-2-5) こどもの熱中症対策として、通学中の携帯用ファン・保冷グッズ等の持参を許可する柔軟なルール変更を行う。「今まで通りの禁止ルールではこどもの健康が守れない」という声に速やかに対応する。
- 6-2-6) 市民病院の救急体制を強化するとともに、中心部以外の地域における医師・介護施設の偏在を解消する。オンライン診療の導入や訪問医療の拡充など、地域医療の新しい形を模索する。

6-3 防災 備え、逃げられ、立ち直れるまち

- 6-3-1) 水害リスクへの対応を強化する。水田放棄による保水力低下→洪水リスク増大、未管理山林・太陽光パネル大規模設置→土砂災害リスク上昇という連鎖的リスクに対し、農地保全と防災を一体的に推進する。
- 6-3-2) 避難支援体制を再構築する。避難所への駐車場確保、国道浸水時の代替経路確認、過去に浸水した避難所の見直し、要支援者の把握と支援ネットワークの構築など、実効性のある避難計画を策定する。「自宅の方が安全」という判断も尊重した柔軟な避難のあり方を検討する。
- 6-3-3) 携帯電話を持たない高齢者が災害時の情報を確実に受け取れる仕組みを整備する。防災無線のスマホ移行と並行し、通信手段を持たない市民への伝達方法を確保する。ライフラインに通信を含めて考える視点が必要である。
- 6-3-4) 消防団員の確保と消防署から遠い地域の消火体制を強化する。団員不足による初動遅延リスクに対し、地域の実情に応じた消防体制の再構築を図る。
- 6-3-5) 鳥獣被害（猿・鹿・猪・熊）の深刻化に対し、農業被害の防止と住民の安全確保の両面から対策を強化する。耕作放棄地の管理や害獣柵の整備と一体的に取り組み、里山の機能回復を目指す。
- 6-3-6) 放置太陽光パネルの管理・撤去に関するルールを整備し、景観破壊と災害リスクの両面から未管理の再生可能エネルギー設備への対策を講じる。開発行為と防災のバランスを確保する条例制定も検討する。
- 6-3-7) 信号無視や車のマナー違反の増加に対し、交通安全対策を強化する。事故多発地点でのスピード抑制対策（路面の視覚的凹凸等）、通学路のゾーン30設定、防犯カメラの増設など、日常生活の安全を守る施策を講じる。



福知山市2040年市民会議

ふくちやま、こうやってみよう。



全5回の「市民会議」とオンラインプラットフォーム「くらしのスケッチ」のまとめ

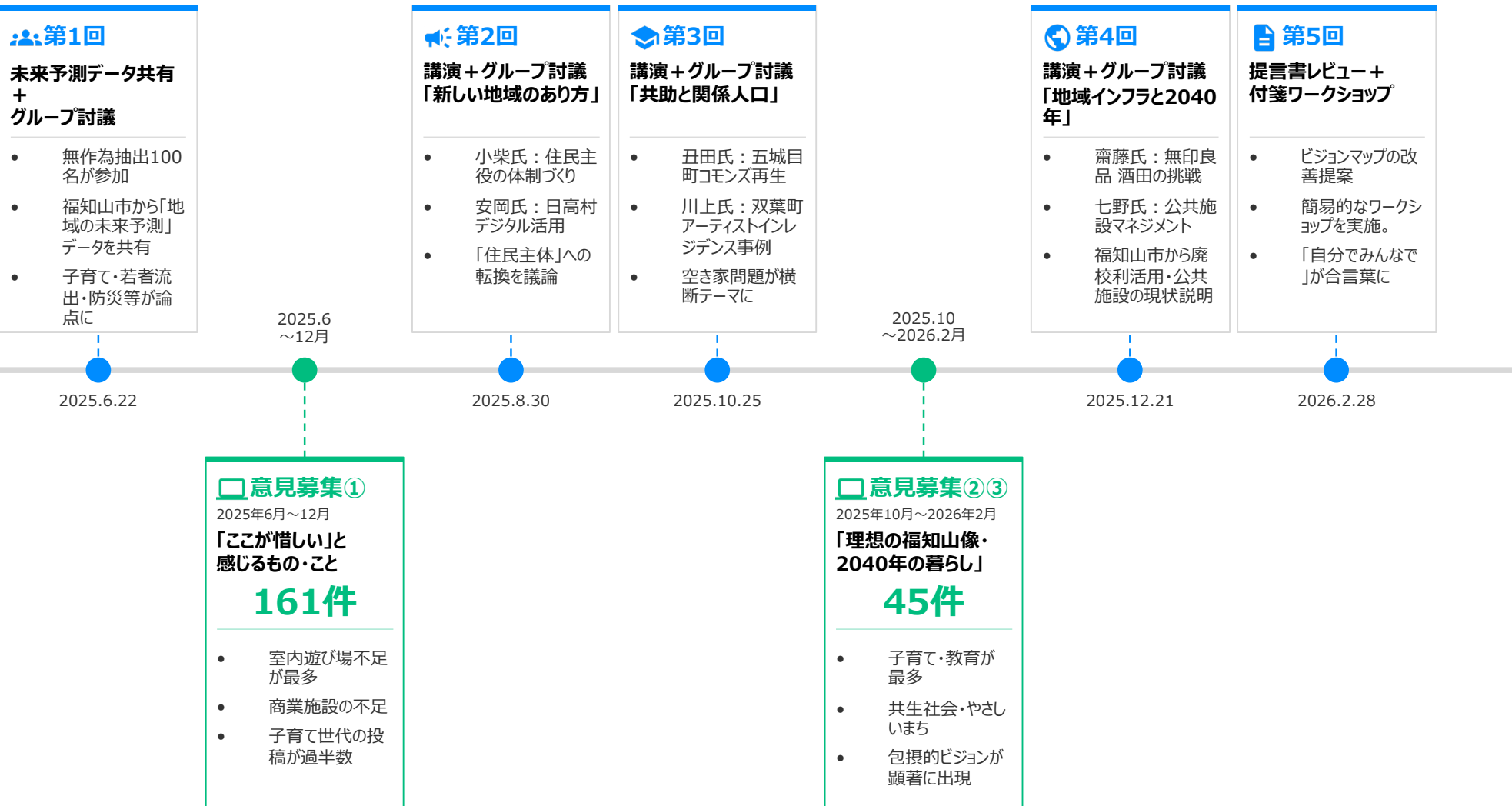
福知山市2040年市民会議の全体像

市民から無作為抽出で参加者を特定し、開催した対面会議「2040年市民会議」を5回開催、同時にオンラインプラットフォーム「くらしのスケッチ」による意見募集を実施。

取り組みの全体像のイメージ

■ 対面会議

■ オンライン



会議の概要

概要

人口減少・少子高齢化の「未来予測データ」を全参加者で共有。年5回の会議を開催し政策反映を継続。オンライン＋リアル融合型で、特設サイト「2040くらしのスケッチ」により来場できない市民も意見投稿が可能。

会議の特徴の共有

- 無作為抽出で選ばれた100名が参加。市民目線での議論を重視
- 誰でも傍聴可能で透明性を確保。グループ討議形式で多様な意見を引き出す設計。

市から共有された未来予測データ

- 人口：2020年→2040年で約1万人減（77,306人→67,598人、▲12.6%）。若年層の進学・就職による流出が大きい。
- 高齢化の加速：高齢化率は30%→35%へ。認知症有病者も約3,500人→約4,900人に増加する予測。
- こども・学校の縮小：0～5歳児・小中学生ともに減少し、複式学級化や部活動維持が困難になる予測。
- 介護需要の増大：要支援・要介護者が増加する一方、介護人材の不足が見込まれる。
- インフラ老朽化：水道管の経年管率が22%→66%に急増。公共施設も7割超が築40年超となる。
- 農業の衰退：農家数が2015年比で43%減の見通し。荒廃農地・鳥獣被害の拡大がより懸念される予測。
- 財政圧迫：社会保障費が増加し続け、財政的な圧迫が進むことで、他の行政サービスへの影響が生じることは不可避に。
- 地域社会への波及：経済縮小、自治会負担増、空き家増、公共交通維持困難など複合的影響などが予測される。

グループ議論で出された主な課題・意見

子育て・教育

室内遊び場の不足。雨天時や冬季にこどもが遊べる場所がない。保育施設の待機問題。通学路の安全確保、歩道の未整備区間への不安がある。

若者の流出・雇用

大学卒業後に市外へ就職する若者が多い。魅力ある雇用の不足。「残りたいが仕事がない」との声。起業支援の充実を求める意見も。

商業施設・買い物

大型店の撤退で買い物環境が悪化。特に周辺部で深刻。中心商店街の空き店舗増加、賑わいの喪失への危機感などが表明された。

公共施設・インフラ

公共施設の老朽化が進行。維持管理コストの増大が財政圧迫。公共交通の減便・廃線。高齢者の移動手段確保が急務との意見が目立った。

地域コミュニティ

自治会の担い手不足・高齢化。活動の形骸化への懸念。世代間交流の機会が減少、若者と高齢者の接点が希薄化しているとの意見が散見された。

防災・安全

水害リスクへの不安（過去の豪雨災害の経験）。避難支援体制の不備、要支援者の把握と支援ネットワークの構築が重要との指摘があった。



講演① 小柴徳明氏（コミュニティドライブ代表理事）

「現象」と「課題」の区別

- 人口減少は「現象」。公共交通廃止・買い物困難等の「困りごと」が真の課題
- 小学校区単位での地域実態に応じた対応が必要

解決策と参加促進

- 住民が主役であることが重要。主役である住民を起点となり行政・専門家・民間が連携する体制づくりが重要
- 若い世代にイベント予算と裁量を委譲→高齢者世代の自らの姿勢によって、若者世代の主體的な参加を促進できる
- 参加方法を多様化：「読む」「寄付」「単発参加」等、関わりかたに「階段」（ハードルの高さが異なる間口）をつくる

キーメッセージ

"Nothing about us, without us"（私たち抜きで決めるな）

質疑応答

- Q. 協力者の見つけ方？
→「遠慮せず積極的に具体的に声かけ」が重要
- Q. 既存住民と転入者の関係？
→有事の時こそ、関係性ができる。
例えば、災害時の避難所情報が自治会価値の認識に繋がる。



講演② 安岡周総氏（えれ株式会社 代表取締役）

課題設定の転換

- 「人口増加策」から「何を守り何を变えるか」への発想転換が必要
- 税収減・人手不足・インフラ老朽化に直視した市民合意形成が必須

高知県日高村での実例

- スマートフォン普及率：令和5年10月時点で約85%（戸別訪問+50か所以上説明会）
- デジタル地域通貨（健康ポイント）→地域店舗で利用可→地域内経済循環に繋げることができた。
- 防災無線機能をスマホに移行→行政支出を削減できる可能性に注目。
- 高齢者とスマホ活用：YouTube学習、家族ビデオ通話、健康管理など

キーメッセージ

「デジタルは手段であり目的ではない」
「支える人を支える」ことが本質

質疑応答

- Q. 高齢者のスマホ活用の実態は？
→YouTube趣味学習、LINE家族通話等で多様に活用。高齢者だからと「新しいものを使えない」という前提に立たない。
- Q. 新規施策の壁は？
→住民との信頼関係が重要。
住民からの感謝の声を支えに継続できる。



グループ討議で出された課題

少子化・若者流出・担い手不足

- 20代の市外流出率が最も高い。「残りたいが仕事がない」が共通の声
- 区長・消防団・自治会長等の複数役職を1人が兼務。これら地縁団体の担い手の高齢化が極めて深刻
- 「役割の押し付け合い」文化が若者離れを加速させているのでは。

農業の衰退と耕作放棄地

- 農業従事者の高齢化→後継者不在で離農加速。時給換算10円の試算もある。どのように新規就農・後継者の確保を図るかが課題。
- 鳥獣被害（猿・鹿・猪）深刻化。放棄農地→保水力低下→水害リスク増という循環にどのようにくさびを入れるかが課題。

公共交通の縮小・デジタルデバイド

- 路線バス減便・廃線進行。免許返納後の移動手段確保が最大課題
- 高齢者のスマホ未普及で情報格差拡大。携帯を持たない世代は、避難情報等を受け取りにくい。防災上のリスクにもなるのではないかと。

医療・福祉の偏在

- 中心部以外で医師・介護施設不足。独居高齢者の見守り体制が不十分であり、近隣に住んでいても、心配になる。

地域の魅力と商業

- 中心商店街の空き店舗増加。「発信力が弱い」が共通認識。
- 祭り・神社の維持が人口減少で困難に。文化継承への危機感を持つ。

参加者から出された提言・市民の声

住民主体のまちづくり

- 「行政任せ」脱却→住民が主体的にまちの課題を解決する文化の醸成
- 若者にイベント予算と裁量を委譲し、主体的参加を促進
- 参加の入口を多様化（「読む」「寄付」「単発」等の関わりの階段）

既存制度の抜本的見直し

- 部分改良でなく「次世代型システム」の構築が必要との共通認識
- 散在する課題（防災・空き家・外国人共生等）を統一視点で再構築

デジタル活用による包摂型社会

- 戸別訪問による高齢者スマホ普及支援（日高村モデルの応用）
- 地域通貨・健康ポイントによる地域内経済循環の仕組みづくり

多世代協働と外部人材活用

- 世代間交流の「場」づくり（温泉・学校等、肩書きの影響が小さい場所）

議事録から印象的だったコメント（事務局が抜粋）

「まちの将来像が見えない中での活動は虚しい。ゴールを示して」
「車がなければ暮らせないまちでは高齢者は住み続けられない」
「農業は儲からない。放棄すると災害リスクが上がる。誰が守るのか」
「スマホを持ってない高齢者が情報弱者に。命に関わる問題」



講演① 丑田俊介氏（シェアビレッジ(株)）秋田県五城目町の事例

具体的事例

- 茅葺き古民家「村民制度」＝年会費制で全国40都道府県から支援が集まる。地域を超えた関係人口づくり。
- 「朝イチプラス」：20～40代女性向けに出店ハードルを下げた取り組み。結果として、来場者3,000人。若い世代を巻き込む重要性。
- 空き家を無料開放→7～8年で30軒の新規店舗が自立的に誕生
- 「超える学校」：市民と子ども3年間WSで設計。図書室中央・塀なし。「一緒につくる」プロセスが肝。
- 補助金なしで持続する仕組みが理想。「遊び」「小さな共助」が経済連鎖を生む

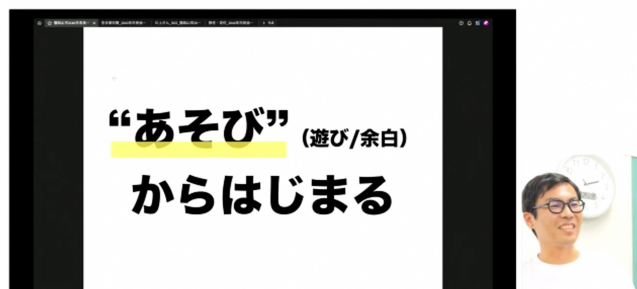
キーメッセージ

「コモンズ再生」

～公と私の間にある共の領域を再生し、見えない資本に着目すること～

質疑応答

- Q. 補助金依存？→民間事業は補助金なしで持続させるべき
- Q. 世代間連携の秘訣は？→温泉・学校等の形式ばっていない場所でフラットな関係性を生み出す。



講演② 川上友聖氏（博報堂/toten）双葉町・朝日町の事例

関係人口の定義と三要素

- 「地域と様々な形で関わる人々」＝交流人口と定住人口の中間層
- 関係人口づくりの3要素
 - ① ひと：地域住民との対話が入口
 - ② 文脈：地域固有の歴史・文化が外部者の継続的関与を促進
 - ③ しくみ：住民と関係人口双方にWin-Winの持続可能な仕組み

双葉町AIR（アーティスト・イン・レジデンス）

- 8組中6組が自主的に活動継続。延べ300人以上の住民が参加
- クラシック作曲家が「双葉の曲」を制作→町内コンサートで約5割が参加

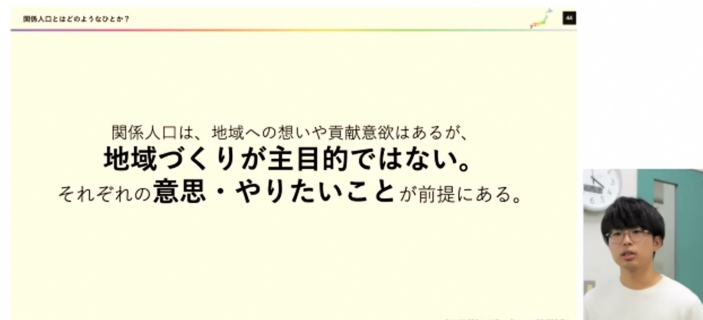
キーメッセージ

「3回来させれば、そこで暮らしていると錯覚する」

～地域外の人々の「やりたい意欲」が地域活力の火種。緩やかな参画の余白が必要～

質疑応答

- Q. 魅力創出の主体は？→行政は「場」と「仕組み」、住民・民間は「活動」
- Q. 定住との関係？→愚直に関わりを積み重ねることが最重要



グループ討議で出された課題

空き家問題（最重要横断テーマ）

- 解体費用（約500万円）＞物件価値→相続放棄が増加
- 空き家バンク累積成約率53.4%。サイトの使いにくさ・対応遅延が課題
- 人口減少下でも新築アパート建設が続く矛盾（建設業の利益構造）
- 付帯農地・山林が活用の障壁（農業委員会の許可が必要）

農地危機と環境リスク

- 水田放棄→保水力低下→洪水リスク増大の連鎖的課題
- 未管理山林＋太陽光パネル大規模設置→土砂災害リスク上昇

移住・関係人口・外国人共生

- 「内山生活体験ツアー」R6：5回開催・8名参加・1名移住
- 「お試し住居」定着率が三和町71%、大江町26%と地域差あり
- 外国人技能実習生の集住→生活摩擦は確実にある。受け入れる企業はどのように関わるべきか。

事業持続性・インフラ

- 補助金依存は自立的モデルを阻害。行政の役割＝「環境整備」
- 携帯を持たない世代＝災害時の情報取得や通報ができない。ライフラインに通信を含めて考えてみては。

提言・地域アイデンティティ・市民の声

空き家活用の提案（4班）

- ABC評価で分類→「一時利用可」物件を無料・低額の週末宿泊に活用
- 行政（初期修繕）＋民間（運営）＋地域（支援）の三者連携モデル
- 歴史的建造物の外観保存＋内装モダン改修で観光資源化

農地の提案

- 「農地バンク」の創設（空き家バンク同様に農地を仲介）
- 行政による農地のリース・サブリースの仲介モデル

地域アイデンティティ

- 藍染・柿渋・栗菓子・焼肉文化・地酒等の資源はあるが「発信力」が弱い
- 「プロセスの共有」（物語性）が物の展示より効果的

議事録から印象的だったコメント（事務局が抜粋）

「関係人口の本質は地域の空気を温めること。即効性を求めすぎ」
「全員が同じ方向を向く必要はない。多様な小さなコミュニティが大事」
「（市民会議には）本気で良くしたいから来ている。」



市の説明+講演① 齋藤徹平氏（無印良品 酒田 店長）

（市の説明）福知山市の公共施設の実態

- 市民1人あたり保有量：約5.9㎡（全国平均の約1.5倍）
- 約71%が築30年超、45%が築40年超。2040年に約1万人の人口減少見込み
- 施設更新費：30年間で約1,110億円必要 vs 投資可能額335億円→大幅不足
- 廃校の民間活用（16校中約6割で活用進行）：雇用創出・関係人口増加に寄与するなど、全国でも先導的な取り組みに。

（齋藤氏講演）無印良品 酒田の挑戦

- 酒田市（人口約9万人）は出店基準を満たさないが、市が直接交渉し無印良品を誘致、「地域の困りごとと商いの力で向き合う拠点」に。
- 中山間地域での移動販売：買い物困難地域へ定期的に商品配送
- コミュニティセンターのリノベーション：住民の居場所づくりに参画
- 医療・福祉・学校と連携したイベント開催：多世代が集まる場を創出
- 店舗を「第三の居場所」として開放：購買以外の来店目的に

（齋藤氏講演）キーメッセージ

「困っている」という実感が出発点。

市民・行政・民間がそれぞれ「自分ごと」として関わることで成立

（齋藤氏講演）質疑応答

- Q. なぜ酒田が選ばれたのか？
→市からの熱意ある直接交渉が決め手
- Q. 既存商店との共存は？
→利益と公益のバランスが課題だが、地域全体の来客増で共存を模索



講演② 七野司氏（貝塚市 公共施設マネジメント室長）

公共施設マネジメントのすゝめ

- 建築技術職として老朽化・財政制約に長年対応してきた実務者の視点
- マネジメントは「削減」ではなく「未来への投資」と位置付け
- 行政単独ではなく民間・他自治体との役割分担が不可欠

「群マネ」= 広域連携の可能性

- 自治体間で図書館・プール・体育館等を共同利用→施設の効率化
- 隣接自治体と機能を補完し合うことで、住民サービスを維持しつつコスト削減

キーメッセージ

「公共施設は誰のために、何のためにあるのか」

施設は「地域の皆さんの安全・安心な財産として地域に還すもの」

質疑応答

- Q. 高齢者の反対への対処は？
→丁寧な説明と選定プロセスの透明化が鍵。
- Q. 住民合意のコツは？
→「決め打ち」でなく複数案を比較検討するプロセスが重要。



グループ討議で出された課題・論点

公共施設マネジメントの危機意識

- 30年間の施設更新費約1,110億円の不足。2032年頃に財政赤字転落の可能性
- 廃校活用の成功事例：旧天津小→サッカー場化、旧中六人部小→イチゴ農園

先進事例からの学び

- 「なぜ酒田が選ばれ福知山は選ばれなかったのか？」→地域課題診断として重要
- 外部企業誘致と既存商店の共存は可能か？利益と公益のバランス
- 高齢者の反対対処→丁寧な説明と選定プロセスの透明化が鍵

二拠点生活・広域視点

- 福知山＋他地域の二拠点生活モデルが注目
- 他自治体の良い取組を積極的に取り入れるべきとの声

提言・市民の声

施設再活用の方向性

- 提案を「確実に可能」「可能かも」「不可能」の3段階で現実性評価
- 外部の民間企業を必要に応じて招聘。「適切な距離感」が若者にも魅力的
- デジタルと対面のハイブリッドで地域情報を発信

合意形成と市民参画のあり方

- 「決め打ち」でなく複数案を比較検討するプロセスが重要
- 課題の当事者が誰かを明確にした上で議論すべき
- まちづくり協議会を定期開催。「くらしのスケッチ」で非参加者の声も反映

議事録から印象的だったコメント（事務局が抜粋）

「無印良品の講演が特に響いた。福知山でもできるのでは」
「官と民と市民の役割を固定しない柔軟さが必要」
「施設を減らすと不安。でも維持費を考えると仕方ない面もある」
「廃校活用は地域の誇り。ただし選定プロセスの透明性が必要」



グループ討議で出された提言案に対する提案

ビジョンマップのデザイン改善

- 12項目は多すぎる。5～6個のテーマ別（安全福祉・環境・経済・文化等）に再整理すべき
- 上部の青色が丹後半島に見える問題。地形表現をより現実的に
- 色を桔梗色や福知山市公式カラーに統一する提案
- イラストが理想的すぎる。課題も含めたリアルな表現へ

世代区分の見直し

- 「子育て世代」と「働く世代」の重複を指摘。年代別（0歳～18歳等）で整理し直す提案
- 子ども自身の視点が欠如。大人目線だけでなく当事者の声が必要
- ライフステージ別ではなくテーマ別の整理を推奨する意見も

内容の具体性強化

- 理想論が列記されている印象。重点的・特色あるまちづくりに絞るべき
- 人口減少データ（2020→2040年で約1万人減）を前提条件として明記し目標設定
- 「教育のまち」としてのアイデンティティ強化。全年代への学びの切り口
- 地域性への配慮：市街地と周辺部で課題が異なることを認識した施策が必要

提言・市民の声

付箋ワークショップの結果

- 全5回を通した今だからこそ言える ① 今の福知山の課題 / ② 2040年の理想の姿について簡易的なワークショップを実施。
- Q1（現在の課題）では「人口減少」「コミュニティの希薄化」「行政への不満」といった危機感が中心なのに対し、Q2（2040年の理想像）では「市民参加」「多世代共生」「支え合い」という前向きな姿が描かれており、共通して「つながりの欠如→つながりの再構築」が一貫したテーマとなっています。

Q.1：今のあなたが考える「今の福知山の課題」は？



1. 人口減少・少子高齢化（10件） 人口流出、人口が減る、無題（少子高齢化）を統合。最も意見数が多いテーマ。代表意見：「地方→人口減少→地方の存続をどうするか」「少子高齢化が進み、他市に比べて…」
2. コミュニティの希薄化・孤立（9件） 疎遠+孤独性を統合。「つながりの欠如」という共通課題。代表意見：「地域住民間の交流の機会がない」「活動の場が少なすぎる」
3. 行政への期待・実行力（7件） 代表意見：「提案に対してどれくらい実行出来るか」「何をやるつもりなのか？」
4. 地域・文化・施設活用（7件） 地域+無題（上段右、施設）を統合。代表意見：「祭・海外交流＝各住人が知る事ができる場」「青年活動不足／空いている施設」
5. 子育て（4件） 代表意見：「こどもの遊び場／土日／公園」「子育て支援が必要な地域」
6. シビックプライド・地元愛（5件） シビックプライド+無題（ピンク）を統合。代表意見：「福知山の良さを知らない市民が多い」「地元愛／内発的に地域貢献」
7. 交通（3件） 代表意見：「車なくても…しやすい」「バス路線・電車に関する記述」
8. 教育（3件） 代表意見：「教育のあり方と実行」「鍵＝教育強化」
9. 産業・雇用（3件） 代表意見：「発展しない」「企業誘致対策」
10. 若者定住（2件） 代表意見：「若い世代が住みやすいところ」「若者が一度出て戻って来やすい」

Q.2：今のあなたが考える「2040年の理想の福知山」は？



1. 市民参加・市民主体（9件） 「参加」+枠外の一部を統合。最多テーマ。代表意見：「自分が主役」「自分とみんなで作る福知山市が年々成果を出している」
2. 多世代共生・住み続けられるまち（9件） 左上大グループ+子どもを統合。代表意見：「三世代・四世代が支え合いながら幸せに暮らせる町」「子供の声が届く町（多く聞こえる）」
3. 安全安心・福祉（5件） 代表意見：「安心安全／医療、治安、治安／空き家活用／コミュニティ」「安全安心なまちづくり」
4. 支え合い・コミュニティ（6件） 右上グループ（支え合い）+左中央グループを統合。代表意見：「住民同士が助けあっていけるような福知山であること」「自分も福知山に住んで幸せです！と話ができる」
5. 人口・コンパクトシティ（8件） 人口+縮むを統合。代表意見：「かしく縮む」「コンパクトでも機能的」「人口問題をどのように解決していくのか」
6. 産業・企業（4件） 代表意見：「会社が増えてほしい」「総合スポーツ施設が出来て見に来る人が増えて、スポーツを楽しむ人が増える」
7. 教育（2件） 代表意見：「教育の地域による格差がなく」「安心して教育が受けられる」
8. 交通（2件） 代表意見：「交通網を整備して大阪・京都間の時間短縮につなぐ」「交通網の充実／個人でも移動できる」
9. ビジョン・希望（3件） 代表意見：「希望を感じる」「期待できる／したくなる」
10. その他（13件） 多様な意見。テーマをまたぐものが多い。代表意見：「具体的事業計画をしる。人口・活性化up・その他」「古い家（空き家物件）を生かした町作りを推進する」

オンラインプラットフォーム「くらしのスケッチ」意見募集①「ここが惜しい」と感じるもの・こと

「地域の未来予測」を踏まえて、今の福知山市で「ここが惜しい」と感じるもの・ことはなんですか？（2025（令和7）年6月～12月）

テーマ別投稿数（上位10テーマ）

テーマ	投稿数
室内遊び場・こどもの遊び場不足	約26件
大型商業施設・買い物環境の不足	約25件
文化施設・観光・ブランディング	約13件
道路・街灯・インフラ整備	約12件
子育て支援・教育環境の充実	約11件
若者流出・魅力ある雇用の不足	約10件
医療環境（耳鼻科・産婦人科等）	約9件
公共交通・都市圏アクセス	約8件
農業・空き家・土地活用	約7件
行政運営・市政への意見	約7件

全体的な傾向

- 子育て世代からの投稿が過半数。「室内遊び場」「商業施設」は近隣市（舞鶴・綾部・宮津・豊岡）との比較で不足感が強い
- 転入者・Uターン者からの外部視点による指摘が多数。「閉鎖的な文化」への問題提起も
- いいね数の多い投稿は室内遊び場・商業施設・子育て関連に集中し、共感の広がりを確認

主なテーマの詳細と代表的な市民の声

🏠 室内遊び場不足（最多テーマ）

猛暑・雨天時に子どもを遊ばせる場所がなく、休日は綾部・舞鶴・宮津に外出。近隣市にはポーネンド遊具やあそびあむ等の施設がある一方、福知山にはない。「子育てを全面に打ち出すなら土日どこに行こうか迷う市ではいけない」

🛒 大型商業施設の不足

イオンの専門店撤退が進み「休憩所だらけ」。ドラッグストア出店は多いが、無印良品・カルディ・映画館等を求める声多数。「北近畿最大級のモールがあれば人口流入がある」

🎭 文化施設・観光

「鬼と光秀」一辺倒のPRへの限界感。郷土資料館の再開、街並みのブランディング、由良川の活用等を求める声。福知山マラソン参加者減少への危機感も。

🚗 交通・インフラ

都市部へのアクセスの良さは評価されるが、特急の所要時間や京都縦貫道の未整備を惜しむ声。街灯不足の指摘多数。車前提でなく公共交通結節を意識した施設配置。

🏥 医療環境

耳鼻科の不足は複数の投稿で共通。市民病院は午前のみで仕事を休む必要。助産院・不妊外来の要望。「北近畿では充実」と再評価を促す声も

👤 若者流出・雇用

10-20代向けの魅力不足。地元企業の閉鎖性、公共事業への新規参入困難。スタートアップ支援や大学生への創業支援を求める声

オンラインプラットフォーム 2040くらしのスケッチ について



① アイデア募集・分析機能

- ◆ 市民が「いつでも・どこでも・匿名でも」自由記述でアイデアを投稿可能、収集された投稿はAIで分析。
- ◆ 公開から200件以上の投稿。
- ◆ 第2回会議より、参加者以外の視点として活用。



② 「地域の未来予測」ポータル

- ◆ 市民会議の議論で用いる「地域の未来予測」を「2040くらしのスケッチ」上で公開。
- ◆ グラフを紙媒体よりもより感覚的に操作可能。
- ◆ 参加者以外の市民への「未来予測」周知を図る。



2040くらしのスケッチ
<https://fukuchiyama-city.lilid.jp/>



オンラインプラットフォーム「くらしのスケッチ」意見募集②③「理想の福知山像・2040年の暮らし」

Q.2「15年後どんな福知山に暮らしたいか」（43件） + Q.3「2040年に過ごしたい暮らし」（2件）を統合分析

テーマ別投稿数（全9テーマ）

テーマ	投稿数
こども・子育て・教育の充実	約9件
共生社会・やさしいまちづくり	約7件
文化・活気・まちの誇り	約5件
医療・健康・福祉・フレイル予防	約5件
農業・産業・雇用の創出	約5件
交通・モビリティ・都市圏アクセス	約4件
行政運営・市民参加・リソース配分	約4件
生活利便性・買い物環境	約3件
高齢者の暮らし・移動支援	約3件

全体的な傾向

- Q.1（課題指摘）と対をなす「理想像」の設問。子育て・教育が最多で、Q.1の課題認識と一致
- 「共生社会」「やさしいまち」など包摂的ビジョンがQ.1より顕著に出現。高齢者・障害のある人・こどもの多世代共生志向
- 「〇〇がないから惜しい」ではなく「〇〇はないけど素晴らしい」と誇れるまちへの転換を望む声が象徴的
- Q.3ではタグ分類（つながり・まちの仕事・くらし便利）が導入され、投稿の政策領域が明示化された

主なテーマの詳細と代表的な市民の声

こども・子育て・教育（最多テーマ）

こどもの声が聞こえる街。安全な水遊び場の設置。オンライン授業で都市部と連携し教育格差を解消。「面白い大人でいっぱい福知山！早く大人になりたい！」

共生社会・やさしいまちづくり

高齢者・障害のある人・こども、誰もが壁なく安心して暮らせる社会。「孤独でない笑顔の絶えない街」。障害のある人とない人のコラボ作品を市展で募集する提案も

文化・活気・まちの誇り

シャッター街の賑わい回復。古き良き伝統と最先端技術の融合。「〇〇はないけど素晴らしい」と誇れるまち。AI時代の人材にあふれた全国モデルケースに

医療・健康・福祉

急性期医療と地域医療の両輪。健康寿命延伸のリテラシーを中年期から意識。65歳以上の活躍が社会参加・税金・認知症予防に寄与する仕組み

農業・産業・雇用

農業の市営化・収益化という大胆な提案。工業団地拡大。「ど田舎を自覚し、都会の真似でなく福知山だからできることを全員参加で」

交通・モビリティ

車がなくても生活できる街。京都縦貫道の整備。副業としての高齢者輸送サービス。先端モビリティで若者にも高齢者にも便利な街

行政・市民参加

リソース配分への納得感。「市民の声を直に聞く行政」。二番煎じでなく目の前の住民のための施策を自信を持って執行する職員のいるまちに

オンラインプラットフォーム「2040くらしのスケッチ」について



① アイデア募集・分析機能

- 市民が「いつでも・どこでも・匿名でも」自由記述でアイデアを投稿可能、収集された投稿はAIで分析。
- 公開から200件以上の投稿。
- 第2回会議より、参加者以外の視点として活用。



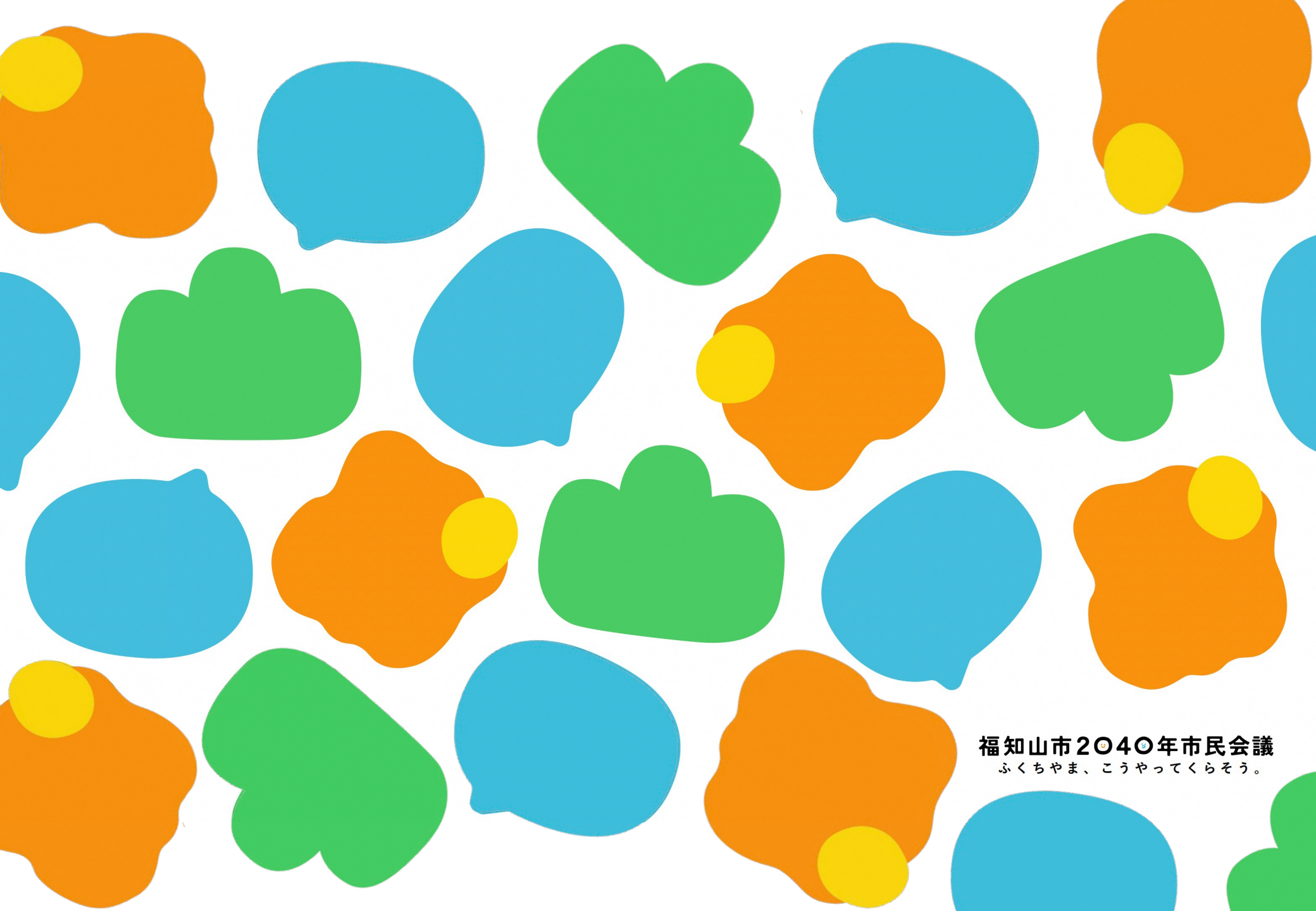
② 「地域の未来予測」ポータル

- 市民会議の議論で用いる「地域の未来予測」を「2040くらしのスケッチ」上で公開。
- グラフを紙媒体よりもより感覚的に操作可能。
- 参加者以外の市民への「未来予測」周知を図る。



2040くらしのスケッチ
<https://fukuchiyama-city.lilid.jp/>





福知山市2040年市民会議
ふくちやま、こうやっぺくらそう。